令和4年3月28日　北海道新聞　朝刊
14面　地域の話題　本学関連記事

「市民が見る機会を」

小樽商大の研究者らシンポ

明治初期に開業　料亭「魁陽亭」

旧魁陽亭の歴史的価値について意見を交わしたシンポジウム

【小樽】明治初期に開業し、多くの著名人が訪れたものの現在は休業中の料亭「魁陽亭(かいようてい)」の歴史的価値などについて考えるシンポジウムが27日、小樽市の小樽経済センターで開かれた。小樽商科大の研究者ら3人が、市民ら約80人を前に、建物に関する研究成果などを報告した。

旧魁陽亭は2015年に休業。18年に札幌の不動産投資業「オール・ケア・アシスト」が建物を購入した。樽商大がアシスト社の協力を得て、建物内に残されていた2千点以上の資料の調査、整理を行った。

シンポジウムでは、北海道職業能力開発大学校特別顧問の駒木定正氏が、旧魁陽亭の歴史を解説。樽商大の高野宏康学術研究員と醍醐龍馬准教授が、新たに発見された資料などについて講演した。

3人は、旧魁陽亭の今後の活用策について議論。駒木氏は「現在は閉鎖されているが、まず市民が見る機会を持つことが大切」と話していた。（宮本夕梨華）

令和4年3月28日　北海道新聞　朝刊
22面　本学関連記事

帯畜・樽商・北見工大が統合

経営効率化 研究に経費配分

ニュース虫めがね

帯広畜産大、小樽商科大、北見工業大が4月1日に経営統合します。国立3大学としては全国初の試みとなります。

Q　大学の経営統合ってどういうこと？

A　3大学はそれぞれの法人が運営してきました。経営統合により、新たな運営法人「北海道国立大学機構」が帯広市に発足し、各大学が機構の傘下に入る形となります。各大学の名称やキャンパス、学長がいる体制はそのままで、今春の入試も別々に行われました。

Q　じゃあ何が変わるの。

A　まずは教育、研究の両面で連携を目指します。一つの例として、最先端の技術を使った農業生産とその販売戦略を組み合わせるなどの授業を充実させます。学生が互いの大学に行かなくてもオンラインで学べ、法改正がされれば各大学の学位を複数取得できる入学枠も設けます。統合に先立ち、各大学が得意とする農・商・工の分野で連携し、豪雨災害対策や自然現象の予測などの共同研究にも取り組んでいます。

国立大の経営統合

時期	運営法人	参加大学
2022年4月	北海道国立大学機構	帯広畜産大、小樽商科大、北見工業大
2022年4月	奈良国立大学機構	奈良女子大（文学部、理学部など）、奈良教育大
20年4月	東海国立大学機構	名古屋大（文学部、理学部、医学部など）、岐阜大（教育学部、医学部など）

Q　それだけが目的？

A　統合によって経営を効率化し、大学の魅力を高めたい。各大学が置く総務、経営企画といった部門は機構本部に集約し、人員配置を整理することで6年間に3億円の経費節約を見込んでいます。そのお金を独創的な研究などに投入し、大学の評価を上げるのです。3大学の文理融合自体、意欲的な取り組みですが、良い研究をするには費用も確保しないといけません。

Q　どの大学も経営が厳しくなっていると聞くけど。

A　2004年に国立大がそれぞれ法人化された後、収入の多くを占める国からの運営費交付金は、10年ほどかけて1割削減されました。もう、かつての水準に戻ることはありません。少子化による18歳人口の減少も不安材料です。これからは国立大であっても定員割れとなる恐れがあります。こうした困難を乗り越えるため、3大学は経営統合の道を選びました。

Q　ほかにも経営統合した大学はあるの？

A　国立大の経営統合は、19年の法改正によって可能となりました。第1号が20年春の名古屋大と岐阜大。4月1日には奈良女子大と奈良教育大も統合します。この2例は、文理複数の学部がある大学を含んだ組み合わせです。帯畜・樽商・北見工大の場合は、専門が異なる単科大の統合であること、小樽―北見間で300キロ以上離れた広域連携であることから注目されています。

（幸坂浩）